

■ 2005年12月31日(土曜日)

県政フラッシュ 2005年

元気な産業

活力ある産業の振興

● 眼鏡産業誕生100周年

本県を代表する産業の一つ、眼鏡枠の生産が福井で始めて、今年で100年。これを記念して、県内ではさまざまな記念イベントが開催されました。



県立歴史博物館特別企画展「めがねギャラリー」

● 「 Bizitt “ふくい” 」の推進

民間の観光専門家を「観光プロデューサー」として4月から(社)県観光連盟に配置。各地域の魅力を生かした旅行商品の開発などに取り組んでいます。また、東アジアからの観光客誘致に向け、中国や台湾、韓国等の旅行業者を積極的に招き、本県の魅力をPRしています。

● 「雇用創出プラン」の着実な推進

コールセンターをはじめとする企業誘致等による新たな雇用の受け皿づくりや、「ふくいジョブカフェ」での若者の就職支援などにより、雇用情勢は改善の傾向が続いています。今後も15,000人の雇用創出に向けた取り組みを積極的に進めていきます。

がんばる農林水産業

● 新品種の育成・普及

日本一早いナシや高糖度ミデイトマトなどといった高収益品目の産地化をはかるとともに、今年度から本格流通がはじまった新品種『イクヒカリ』のブランド化にも取り組んでいます。



イクヒカリの刈り取り

● 新たな販路開拓

初めての試みとして、福井すいかやコシヒカリを香港、台湾へ輸出し、現地のスーパーで好評を博しました。今後は他の農産物にも輸出の範囲を広げていく予定です。さらに、11月からは大手インターネット通販サイトで県産品の物産展を開催し、「健康長寿ふくい」の食をPR。また、京阪神で高級食材として人気が高い「若狭ぐじ」のブランド化に向けて、鮮度維持のための技術の確立や市場開拓の取組みを支援しています。

● 日本そば博 in 福井

全国のそば処を巡って開催される「日本そば博覧会」を、11月に福井で開催。全国の自慢のそばが一堂に会した中で、本県が誇る越前おろしそばのおいしさをアピールしました。

元気な社会

さらなる「健康長寿」をめざして

● 健康長寿バイスクール大会

環境にやさしく健康維持にも優れた自転車の利用を進めるため、5月に県内3会場で「健康長寿バイスクール大会」を開催。さらに、自転車で走りやすい道路環境の整備を進めていきます。



健康長寿バイスクール大会

● 食育の推進

食育ボランティアによる活動が活発化する中、11月には「ふくい食のめぐみ祭」を開催し、多彩なイベントで本県の食育を発信。本県独自の食育の取り組みを進めるため、「食育活動マニュアル」も作成しました。

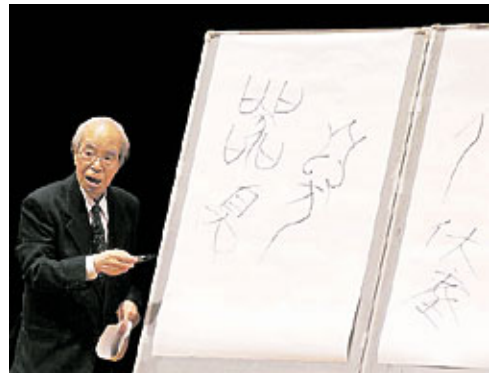
● 特別アドバイザー委嘱

健康長寿を本県の誇るブランドとして具体化・強化するために、健康長寿に関する研究の第一人者・家森幸男（やもり ゆきお）京都大学名誉教授に「健康長寿ふくい」推進特別アドバイザーを委嘱。今後、県の施策に対するアドバイスを「健康長寿ふくい」の国内外へのアピールをしていただきます。

郷土の人に学ぶ

● 白川文字学の普及

福井出身の漢字・文字研究者、白川静博士の研究成果を紹介する「白川文字学（もじがく）の室（へや）」を県立図書館に開設。「白川文字学」の世界に親しみ、漢字の成り立ち、字形と意味の関係などを体系的に学ぶ漢字学習講座を開講するなど、文字文化の普及・発信に取り組んでいます。



白川博士の記念講演会

● 「五箇条の御誓文」草稿の取得

近代日本の礎をつくった郷土の先人の気概を広く県民に知ってもらうため、7月には元福井藩士・由利公正（ゆり こうせい）直筆の「五箇条の御誓文」の草稿を取得。県立図書館などで行われた一般公開には、たくさんの方が見学者が訪れました。

きめこまかな福祉

● 「元気な子ども・子育て応援計画」策定

3月に策定したプランに基づき、子育て支援のためのさまざまな施策を実施。新たに募集した「子育てマイスター」には、約400の方が登録し、10月から各地の児童館や公民館で子育て相談等の活動を開始しました。



子育てマイスターの活動風景

● 陽子線がん治療施設の整備

若狭エネルギー研究センターにおける研究実績を活かし、広く県民が活用できるがん治療施設を整備するため、7月に専門家による検討委員会を設置。検討結果をもとに県立病院への併設

を決定し、平成21年度の治癒開始を目指して基本設計に着手します。

元気な県土

進む福井駅周辺整備

● 新・JR福井駅開業

平成12年から本体工事が進められてきた福井駅付近連続立体交差事業。その中核となるJR福井駅の新駅舎が4月に開業しました。従来のイメージを一新する新駅舎には、1階に商業施設も併設され、話題を呼んでいます。



新しく生まれ変わった福井駅

● 北陸新幹線 福井駅部着工

6月には、待ち望まれていた北陸新幹線の福井駅部建設工事がいよいよスタートしました。また、12月には南越・敦賀間の工事実施計画の認可申請が実現。今後も、金沢開業と同時期での福井開業、敦賀までの早期認可・整備を目指し、国や関係機関への積極的な働きかけを行っていきます。

福井豪雨の経験を活かして

● 豪雨から1年

昨年の福井豪雨から丸1年を迎えた7月、水害の恐ろしさを忘れず、その教訓を活かそうと、美山町での「川と人との共生会議」をはじめ、県内各地でさまざまなメモリアルイベントが開催されました。



足羽川の河床掘削工事

● 防災体制の見直し・強化

豪雨で破堤した足羽川では、再度の災害防止のため、川底の掘削や橋梁の架け替え等の対策工事が着実に進められています。また9月には、初めて豪雨災害を想定した県総合防災訓練を実施し、関係機関の連携に重点をおいた訓練を行いました。

● 災害ボランティアの活動促進

福井豪雨の際の災害ボランティア活動を全国に発信し、今後の活動に役立てるため、6月に全国フォーラムを開催。全国から集った参加者が、ボランティアと行政との協働や今後の課題などについて意見を交換しました。

エネルギー研究開発拠点化計画がスタート

本県を、原子力を中心としたエネルギーの総合的な研究開発拠点とするため、産学官が連携した取り組みを推進しています。

7月には、若狭湾エネルギー研究センターに計画推進を担当する推進組織を設置し、人材の育成や産業の創出に向けた事業を実施。また11月には、国や関係自治体、産業界、大学、研究機関等が参画する推進会議の第1回会議が開催され、平成18年度の施策を中心とした推進方針を決定しました。今後、県民がそ

の成果を実感できるよう計画の実行に取り組んでいきます。



原子力関連業務従事者研修

元気な県政

安全・安心に暮らせる社会づくり

● 子どもの安全・安心

地域ぐるみで子どもの見守り活動を行う「子ども安心3万人作戦」を展開。各校区ごとに活動組織が設立され、PTAや自治会をはじめ、「子ども110番の家」やバス・タクシー事業者など、多くの方々が積極的に活動に取り組んでいます。



マイタウンパトロール隊の活動

● アスベスト対策

今年、全国的に大きな社会問題となったアスベスト(石綿)による健康被害を防止するため、早急な対策を推進しました。9月には全国で初めてアスベスト対策に的を絞った条例を制定し11月に公布・施行。関係者等への働きかけを強め、条例の円滑な運用に努めています。

● 国民保護計画

7月には万一の武力攻撃やテロから住民を守るための避難・救援措置を内容とする「国民保護計画」を、全国で初めて策定。この計画に基づき、11月には、国と共同で原子力発電所へのテロ攻撃を想定した日本で最初の実動訓練を美浜町で実施し、付近住民も多数参加しました。

地方分権の時代に向けて

● 憲法改正問題への取り組み

地方分権改革を抜本的に推進するためには、現在、各政党などで議論されている憲法改正問題に地方も積極的に関わっていく必要があります。全国知事会の憲法問題特別委員会では、地方自治の充実に向けた憲法改正の中間報告を決定し、10月末に委員長を務める西川知事が政府、国会、各政党に対し要請を行いました。



徳島県で開催された全国知事会議

● 「ふくい2030年の姿」作成

今年3月、県では、25年後に福井が目指すべき未来像をまとめたレポート「ふくい2030年の姿」を作成。8月には、竹中平蔵大臣を迎えての県民フォーラムを開催し、理想の実現に向けて今何をすべきかが話し合われました。新しい時代に向け、県では今後も未来を見つめた県政を推進していきます。

福井の魅力を全国へ

● ふくいブランドの創造

福井の魅力を全国に向けてPRいただいている「ふくいブランド大使」の活動報告会が9月に開催され、今後の活動について意見交換が行われました。また、県が支援する地域ブランド創造活動も活発化。今年は新たに3つの地域が活動を開始しました。



国民文化祭オープニングフェスティバル

● 国民文化祭・ふくい2005

「福のくから ふくらむ文化 羽ばたく未来」をテーマに繰り広げられた「第20回国民文化祭・ふくい2005」では、全27市町村で多彩な祭典を開催。全国から参加した3万人余りの出演者と78万人を超える観客・ボランティアが、文化を通して感動と交流の糸を紡ぎました。

● 愛・地球博で福井をPR

3月から9月にかけて開催された愛・地球博の中でも、さまざまな形で福井をPRしました。7月に行われた「福井県の日」のステージイベントでは、美山町の高齢者劇団「ババーズ」が公演。「健康長寿な福井」をアピールしました。